

平成十年から十九年末までに通讀

(凡例)

著者、『書名』出版年、出版者。(讀了日を示す整理記號)

副題および。内容概要。

その他。

平成十年

池下育子『セックス・ルネサンス』平成十年、マガジンハウス。(10-08-21)

更年期以降の女性にとって、性生活の大切さを説いてゐる。「獨樂」といふ言葉あり。

藏塚也『なぜヒトは美人を愛するのか』平成十年、二密書房・知的生き方文庫。(10-08-08)

美男美女を求める心を生物學の「利己的遺傳子」の考へ方で多方面から見えてゐる。

チエリーピックフォード、河野檀譯『ブルーホテル』平成六年、一見書房。(10-08-15)

ミステリーポルノ。

クロンハウゼン夫妻、安田一郎譯『完全なる女性・性的欲望と反應』昭和四十一年、河出書房新社。(10-09-20)

『モア・リポート・女たちの生と性』昭和六十年、集英社文庫。(10-10-07)

女性の性的體驗の報告集。十七歳から五十二歳まで、四十二人の報告。

『モア・リポート・新しいセクシュアリティ』を求めて』昭和六十一年、集英社文庫。(10-10-14)

女性の性的體驗を項目別に紹介。

佐々木忠『プラトニック・アニマル』平成四年、情報センター出版局。(10-11-29)

ポルノ映畫監督の眼で見たオーガズム獲得法、自己の殻を剥ぎ取ることが必要といふ。

松浦理英子『ナチユラルウマン』平成三年、河出文庫。(10-12-02)
若い女性同性愛小説。

福田和彦『江戸の性愛學』昭和六十三年、河出文庫。(10-12-07)

心葉疾『來自共和國「掃黃」總部的報告』平成三(一九九一)年、胡南文藝出版社。
(10-12-26)

中共國におけるポルノを中心とする出版統制の報告。隨所に社會主義的出版の考入方が出てゐる。

平成十一年

魯地『黃禍在中國』平成五年(一九九三)、吉林文史出版社。(11-01-18)
中共國における性犯罪の報告。

笠井寛司『幸せの性革命』平成九年、小學館。(11-01-26)
解剖学的な面からの啓蒙書。「獨樂」といふ言葉。『秘事作法』

北澤拓也『人妻の三泊四日』平成十年、双葉文庫。(11-02-14)
短編ポルノ小説集。絵画教室經營の宮永が自分の愛人の紹介や教へ子と性交渉を持つ。すべてワンパターン。

團鬼六『人妻』平成十年、幻冬社アウトロー文庫。(11-02-28)
小説。

黒沼克史『援助交際』平成十年、文春文庫。(11-03-06)
ボケベルの普及により擴がった女子中学生、女子高校生の賣春の實態を紹介。

山口香『美膚の饗宴』平成十一年、ケイブンシヤ文庫。(11-03-12)
お手軽ポルノ。銀行員鈴木の女性遍歴。駄作。

綺羅光『美人課長映美子 媚肉の特訓報酬』平成九年、フランス書院文庫。(11-05-01)
ポルノ小説。終り方が駄目。

マルキド・サド、洪澤龍彦譯『シユスチー又あるいは美徳の不幸』昭和六十年、富士見

ロマン文庫。(11-05-05)

悪徳の論理を述べた小説

富島健夫『花の秘密』平成九年、双葉文庫。(11-05-15)

中學から高校二年までの間に、鈴子は叔母夫婦によって實地の性教育を受ける。ソノトボルノ。再讀(290627)

マルガレーテフォンファルケンジ、赤木元譯『ブルーエンジェルシークレット』平成元年、富士見浪漫文庫。(11-06-04)

一九三〇年代のハリウッドでの一人の映画監督の死を巡るボルノ。

ハンス・エバーハート、阿部孔子譯『レズビアン』平成六年、青弓社。(11-07-06)

心理的病態の一つとしての同性愛についての事例を擧げての解説。成長期における非正常な心理環境により性意識が歪められることを示してゐる。

林美一『江戸の枕繪師』昭和六十二年、河出文庫。(11-07-29)

浮世繪師はいづれも枕繪を描いてをり、ここでは著名浮世繪師の枕繪を紹介してゐる。

宮淑子『メディア・セックス幻想』平成六年、太郎次郎社。(11-09-05)

ボルノビデオについて女権論者としての報告。ボルノビデオが一つの作品であるといふ認識から、少しずれてゐる。長野縣のビジネスホテルで有料ボルノビデオを仲間と一緒に盗み見たことや、インタビュー相手の本名や私生活を不必要に記述するなど、不用意な面がある。

別冊宝島編集部『ザ・風俗嬢』平成十一年、宝島社文庫。(11-09-16)

性を賣り物とする職業の女性らについての個人的な來歴を紹介。

埴慶一郎『翔ぶバイアグラ』平成十一年、飛天出版。(11-10-25)

三流ボルノ小説

南里征典『出張撮影師がゆく』平成十一年、日本文藝者。(11-10-25)

ボルノ小説

豊田行二『野望秘書』平成六年、光文社文庫。(11-10-28)

ボルノ小説

安部牧郎『夜の肌ざわり』平成十一年、廣濟堂文庫。(11-10-30)

二流戀愛小説

平成十二年

赤松光夫『密会妻』平成六年、徳間オリオン、オリオン文庫。(12-02-13)

富島健夫『雅子の見聞記』平成九年、徳間文庫。(12-05-31)

青春小説。

平成十三年

岡田甫『川柳愛慾史』昭和二十七年、あまとりあ社。(13-07-11)

川柳で綴った古代日本の性愛史。再讀(1010521)

平成十四年

代々木忠『プラトニック・アニマル』平成四年、情報センター出版局。(14-07-16)

再讀(10-11-29)。

平成十五年

土屋英明『道教の房中術』平成十五年、株式會社文藝春秋、文春新書。(15-06-08)

副題に「古代中國人の性愛秘法」とある。古代支那の道教に基づいた、性交による養生長命の技術とその理論を解説。

これを讀んで感じたこと。性交は種族保存の本能に基づく、「次世代産出」を目的とした行爲であるが、その行爲を「今、生きてゐる個體の長命」を目的とした手段として位置づけるのが房中術である。これは支那民族の徹底した實利主義から來るもの。支那文化の

壓倒的な影響を受けた我が民族であるが、性交を単なる「子孫繁榮」、「楽しいこと」あるいは「遊び」として捕へる以上のものにはしなかつた。ところが、房中術の文献は返入つて、我が國に保存されて、支那本土には、文献の身のみが傳へられた。この事情は佛教でも同じで、支那では大量の佛典を漢譯しながら、翻譯が終れば、用済みとして、原典は捨てられたやうである。我が國では、般若心經のパーリー語原典までもが今に至るも保存されてゐる。

富島健夫『背徳者たち』昭和五十六年、實業之日本社。(15-06-15)

「富島健夫小説選集・十九」。ポルノ小説集。再讀(290625)

藍川京『紅蕊日記・人妻千亜紀』平成十四年、株式會社日本出版社、アップルノベルズ(15-08-23)

出色のポルノ小説。再讀(24-08-23)(290129)

綺羅光『美人課長 映美子』平成九年、株式會社フランス書院、フランス書院文庫。(15-09-12)

二流ポルノ小説

カトリックリシユエール、中田耕治『秘戯』昭和五十年、フランス書院。(15-10-04)

二十歳の乙女の夏の別荘での処女喪失と、友人夫妻、男友達との性交渉物語。物語の前半は優れた構成だが、後半は少しだれた内容。翻譯は、対象の人物を取り違へるところが二、三箇所ある。

相對會『赤い帽子の女』平成十一年、河出書房新社、河出文庫。(15-10-08)

副題「相對レポートセレクトション五」とある。芥川作かといはれたポルノ短編『赤い帽子の女』のほかに、數編を収録。最後に付け足してゐる、来栖某の「あとがき」が、場違ひの論議をしてゐる。全編を通して、ポルノとしては物足りない。参考的な價值のみ。

影村英生『成城淑女の寢室』平成四年、株式會社青樹社。(15-12-28)

ポルノ短編小説集。まつまつの内容。女子専用マンション管理人が覗き、かかはつた物語。物語が破綻してゐるものもある。

平成十六年

生活文化資料研究會編『江戸艶本傑作選』昭和二十八年、生活文化資料研究會。(16-

江戸の艶本、『開註年中行誌』、『春色入船日記』、『仇枕浮名草子』の文章部分のみを活字で収録したもの。いづれも原本を見たことはないが、繪の部分は現在でも出版をばばかる内容であらう。文章の内容は、いづれもたわいの無いもので、まさに「資料」的な価値のみ。

バクシーシ山下『セックス障害者たち』平成十一年、株式會社幻冬舎、幻冬舎アウトロ―文庫。(16-06-30)

いはゆるアタルト「デオといふ性交を主題にした」デオ作品製作の監督が製作過程で登場した男女の俳優について書いてある。筆者の作品は、強姦、糞尿、監禁、その他異常な環境での性交を専門に扱ふ。よつて、その登場俳優は正常の性交感覚を持たない障害者だと言ふ。筆者のビデオ撮影過程やこの業界の仕組みなど、興味深い内容。「バクシーシ」といふ名は物乞ひ乞食の意味でつけたとのことなので、インドなどで物乞ひの時に發する言葉から取つたものか。

富島健夫『男女の原點』平成三年、株式會社光文社、光文社文庫。(16-06-06)
中高年者の性を課題にした性交小説。

林美一『江戸艶本を読む』平成六年、株式會社新潮社、新潮文庫。(16-06-22)

江戸時代の種々の性交文藝を紹介。「艶本」は「繪本」のもじりで、「エホン」と讀む。「エホン」と讀む例はほんの数例とのこと。著名な文筆家がそれぞれ性交文藝を試みてゐるといふ。繪の作者についても紹介。江戸時代の性交文藝について、基礎事項が判りやすく、入門書として好ましい。

原比露志『川柳女一代』昭和二十八年、有限會社紫書房。(16-07-02)

江戸の川柳から女に關聯したものを、誕生から離婚までの題目分けして解説。戦後の時世を反映した解説。

岡本隆三『纏足』昭和三十八年、株式會社弘文堂。(16-07-14)

支那の漢民族の女性に永く續いた纏足の風習に就いて、そのやり方、性的刺激との關係、歴史的背景、纏足廢止の経緯などを解説。

この書では、宦官と、罪人に對する生皮剥ぎの刑にも觸れてはゐるが、これらが漢民族特有の人の家畜化に通じるものとの視點は無いやうである。恐らくは、漢民族にある耳たぶに穴を開けること、敵對する者を殺し、その肝臓を食べること、嬰兒を食材にすること、などの古い風習とも共通した根を持つものであらう。

オリビアセントクレア著、深井みこ譯『ジョアンナの愛し方 Part II』平成七年、株式會社飛鳥新社。(16-07-22)

『シヨアンナの愛し方』の續編。魅力的な女性になるための手法を紹介。この巻では獨樂の仕方について紹介。

富島健夫『誘惑の季節』昭和六十年、株式會社桃園書房、桃園文庫。(16-07-24)
大学一年生の男とそれを取り巻く女らとの性交小説。

富島健夫『男女の接點』平成三年、株式會社光文社、光文社文庫。(16-08-06)
三人遁合ひを主題にした性交小説。『男女の原點』の續編。

下村耿史『性技實踐録・セックスメート氏聞き書き』平成十年、河出書房新社、河出文庫。(16-08-14)

スワッピング専門誌『ホームダイヤモンド』などで活躍したセックスメート氏による女を喜ばせる技術紹介。再讀。

福田和彦『江戸の性愛學』昭和六十三年、河出書房新社、河出文庫。(16-08-28)
江戸時代の性愛書を紹介。再讀。

三枝茂彰ほか『性愛』大論點』平成十一年、株式會社小學館、小學館文庫。(16-09-08)
性に就いての公開討論會を纏めたもの。性差についての色々な段階での定義や、性愛について興味深い。

龜山早苗著、陳玉芬譯『深陥不倫地獄的女人』平成十五年、尖端出版股份有限公司(臺灣)。(16-09-22)

『不倫の恋で苦しむ女たち』の漢譯。夫以外の男との戀、他人の夫との戀などで苦しむ様々な女性を紹介。

ポーリーヌ・レアージュ、長島良三譯『正・續 オ嬢の物語』昭和五十六年、株式會社二見書房。(16-10-06)

戀人の氣に入るやうにと、命ぜられる儘に鞭打たれ、他の男に譲られ、更に陰唇に鐵の輪をはめられ、尻に焼き印を捺され、人格のない奴隷として性の道具になり、高級娼婦として賣られて仕舞ふ過程を描いてゐる。

この本の扉には、副題の如く「上海異人娼館」とあり、カバーには、大きく、題名の如く、「上海異人娼館」、カバーの背にも題名の如く、「上海異人娼館」とあるが、本文にはまったく關係が無い。

本多尚二郎『ふるさとの性風俗』 昭和四十四年、人間書房 話題シリーズ一。(17-01-25)
日本各地の性にまつはる話題集。誤植多し。カバーには「人間書房」とある。素人出版の如し。文章も練れてゐない。

團鬼六『蛇のみちは 團鬼六自傳』 平成九年、株式會社幻冬社、幻冬社アウトロー文庫。(17-04-04)

博打好きの父親の元で育ち、勝負事や博打を好む自分が、どのやつな経緯で作家になつたか、エスエム小説に徹すると生活が成り立つといふ不思議な成り行きを紹介。筆名の由来、谷ナオミの藝名の由来あり。人の縁で仕事が成り立つといふことがよく判る。

土屋英明『房中悦あり 中國性奇談』 平成十六年、株式會社徳間書店、徳間文庫。(17-04-19)

中華民国十六年發行の珍しい性の話を集めた本、『什麼話』と『性交大觀』の内容を翻譯、再編したものだ。最後に、辛亥革命から大東亞戰爭までの頃の、大陸のポルノ出版の概略の紹介がある。

田中叔朗『猥褻の系譜』 昭和五十七年、オハヨー出版株式會社、シロアリ文庫。(17-05-29)

男女の性器に着いての雑文集。書名は不適切。「猥褻」とか、その「系譜」についての内容は無い。

鈴木敏文『性の秘本ビジュアル編』 平成九年、河出書房新社、河出文庫。(17-07-04)
性に關する入手しがたい本を紹介。寫眞を多く掲載したとのことだが、いづれも小さくて、判りにくい。

平成十八年

フランシスルロワ、アイリスルタン、河村季里譯『エマニユエル』 昭和五十九年、株式會社富士見書房、富士見浪漫文庫。(18-03-18)

外交官夫人としての経歴のあるシルビアは、愛人マルクを忘れるため、ブラジルで若返りと全身變身の手術を受けて、エマニユエルとなる。看護兼心理カウンセラーのドナは、エマニユエルと同性愛に陥る。エマニユエルは性愛の化身となり、次々と相手を替へて性愛を経験する。ドナに愛められ、ドナの愛人と愛し合ふやつになるが、強姦團に襲はれて

自分はマルクを愛してゐることを再認識する。最後のまとめが拙い。

菜摘ひかる著『風俗嬢菜摘ひかるの性的冒険』平成十年、株式會社洋泉社。(18-06-01)

性を賣る女として色々な職業を體驗した、自分の過去を紹介。再讀(281003)

ソールベルディエール著、金井諒子譯『ドクターの館』平成十四年、株式會社光文社、ブイコレクウシヨン五。(18-10-07)

女性向けセクシャルファンタジー・シリーズ。クローン人間開發の秘密研究所へ潜入取材で這入りこんだアンナは、同僚記者に救ひ出されるが、クローン人間を連れて一緒に暮らすことになる。

飯島愛著『プラトニック・セックス』平成十二年、株式會社小學館。(18-11-29)

かつて話題になつたといふ本。テレビで活躍している本人の自傳。不良少女がテレビタレントになつた経緯を紹介してゐる。最後の部分に、母親の日記を轉載して、自分がどのやうな不良少女であつたかを示して、懺悔めいたことを書いてゐるが、そのやうになる自分の心の動きや、そのきつかけ、周囲の人物との係はりなどについて、不満の残る内容である。書名は「プラトニック・ラブ」を連想させるが、本書に紹介された著者の性行動は、「プラトニック」とは、相容れない性質のものであり、商品名としては成功したのかも知れないが、實體を表さない書名である。

平成十九年

福田利子著『吉原はこんな所でございました』平成五年、株式會社社會思想社、現代教養文庫。(19-02-23)

吉原の引手茶屋「松葉屋」の女將の自傳。戦前から現代までの吉原の遷り變りを紹介。

永田守弘著『官能の淫髓・極めつき十編』平成十五年、川繪で書房新社、河出文庫。(19-03-23)

現代の代表的ボルノ小説十編について、その作者と作品の傾向を紹介。代表作の触りを紹介。藍川京が良い。後に再讀(20-11-07)。

アダム徳永著『スローセックス実践入門』平成十八年、株式會社講談社、講談社ぶらすあるふぁ新書。(19-03-29)

性交は射精を目的とするのではなく、愛戯による「性エネルギーの交換増幅」を目的とすべきだと主張。

砂戸増造著『淫虐の館』平成十二年、河出書房新社、河出文庫。(19-06-14)
筆者には「サドマスソウ」と振り仮名あり。被虐の悦楽の頂點は死であるとして、可
虐嗜好の男らからなぶられながら死んでゆく女達を描いてゐる。

安藤房子著『リサイクル・セックス』平成十六年、ダブリュエイブイイー出版。(19-09-26)
副題に「元彼や男友たちと気軽にセックスする女たち」とある。戀愛感情を持たずに、
以前の戀ひ人や知人と性交渉を重ねる女性が増えてゐるとして、その性交渉を「リサイク
ルセックス」と名付け、その實態を報告してゐる。それは、愛情抜きで、不特定多數との
性交渉に伴ふ危険性が無く、當人の心の癒しと満足を齎すといふ利點がある。根本には、
戀ひ人や夫との性的な不満足に目を背け、一時のぎで胡塗するだけであり、夫や戀ひ人
以外の多數の男性と性の快樂を求めることから、出逢ひ系などの危険に近づく可能性が増
大する。直面する問題に根本的に立ち向かふ爲の心理テストを提示してゐる。

内藤みか著『美男子のお値段』平成十六年、ダブリュエイブイイー出版。(19-10-09)
ホストクラブや出張ホストで働く男についての、それを利用する立場からの體驗報告
の形で、男の女性化、女の男性化の傾向と、女性が男を買ふ心理を分析、紹介してゐる。
「値段」についての紹介や議論は、殆ど無い。ホストクラブへ来る女性客に多額の金を支
出させる心理的な仕組みの紹介は興味深い。

菰田麻紀子著『代理母出産』平成八年、株式會社近代映畫社。(19-12-04)
米國カリフォルニアでは行はれてゐる代理母出産について、我が國でそれを仲介してい
る組織と、米側組織を紹介し、その實際と手順を解説。更に、代理母出産に伴ふ諸問題に
ついて解説。但し、國內非合法の治療を外國で受けるといふ脱法行爲に伴ふ問題に就いて
は一切、觸れてゐない。

酒井あゆみ著『賣春論』平成十七年、株式會社河出書房新社。(19-12-13)
様々な形の賣春を直接に經驗してきた筆者が取材を通して、儲かる人とさつでない人、
最近の賣春婦の事情などを紹介。正面切つて論じられることの少ない分野なので、興味深
い。

この網上葉の履歴

令和元年八月朔日、掲載。